

「今週の一枚」



トキワサンザシの花の蜜を吸うミカドアゲハ

ミカドアゲハ（帝揚羽）の春型が四国支所の実験林に現れるのは4月下旬、ちょうどトキワサンザシの白い花が咲くころです。ミカドアゲハはインドから東南アジア、台湾にかけて広く分布する南方系のアゲハチョウです。かつて高知市が分布の北限だった頃に、国の天然記念物に指定されました。しかし、現在では徳島県、愛媛県、そして紀伊半島や山口県の海岸部でも見られるようになりました。幼虫は、モクレン科のオガタマノキ（まれにタイサンボク）の葉を食べて育ちます。分布域の北上が森林植生の変化を反映したものでしょうか分かりませんが、近年の温暖化との関わりが注目されます。春型のアゲハが産んだ子供達は、たいてい蛹のまま翌春まで越冬します。しかし、なかには7－8月頃、夏型のアゲハになってふたたび実験林に現れるものもいます。

（No.3 2001.6.18 掲載）